

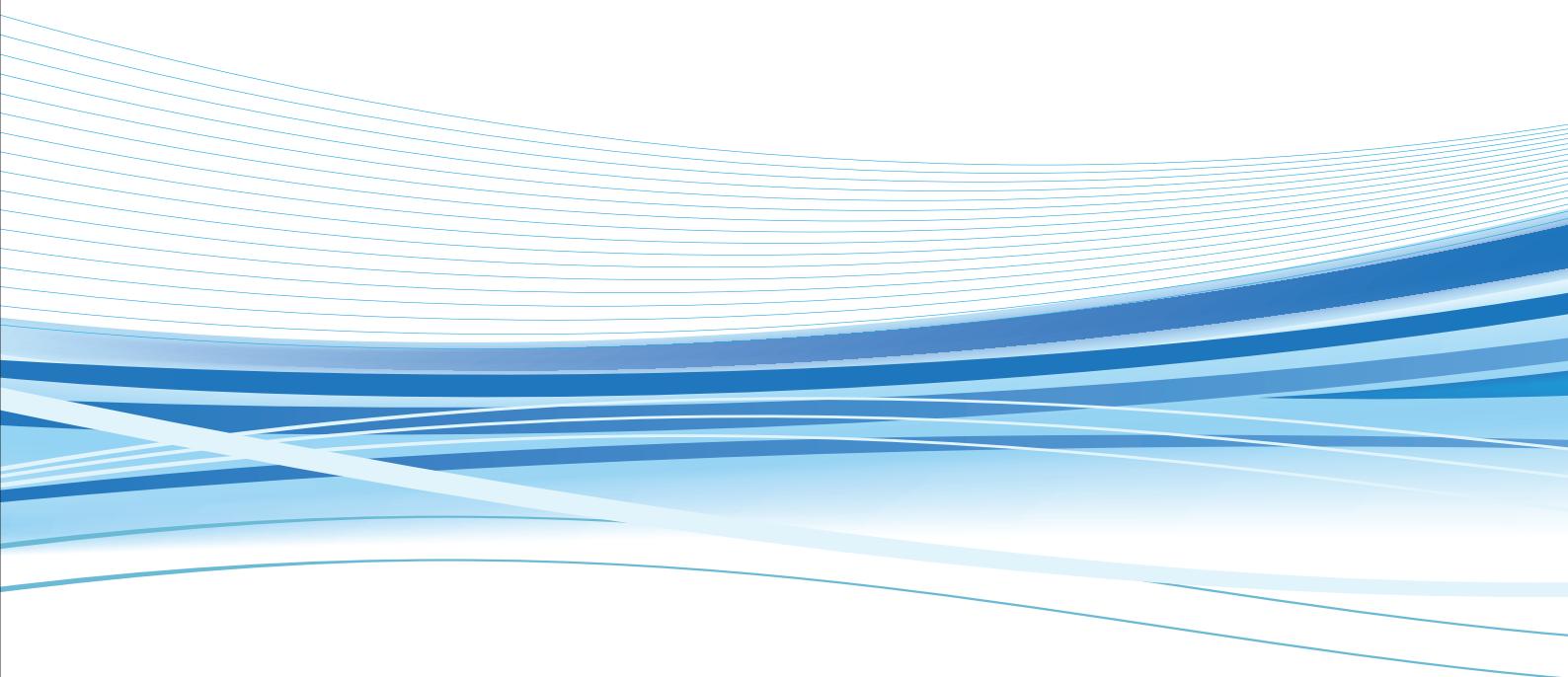
Society 5.0 with Human

北九州産業学術推進機構 (FAIS)

第5期 中期計画 2018-2022

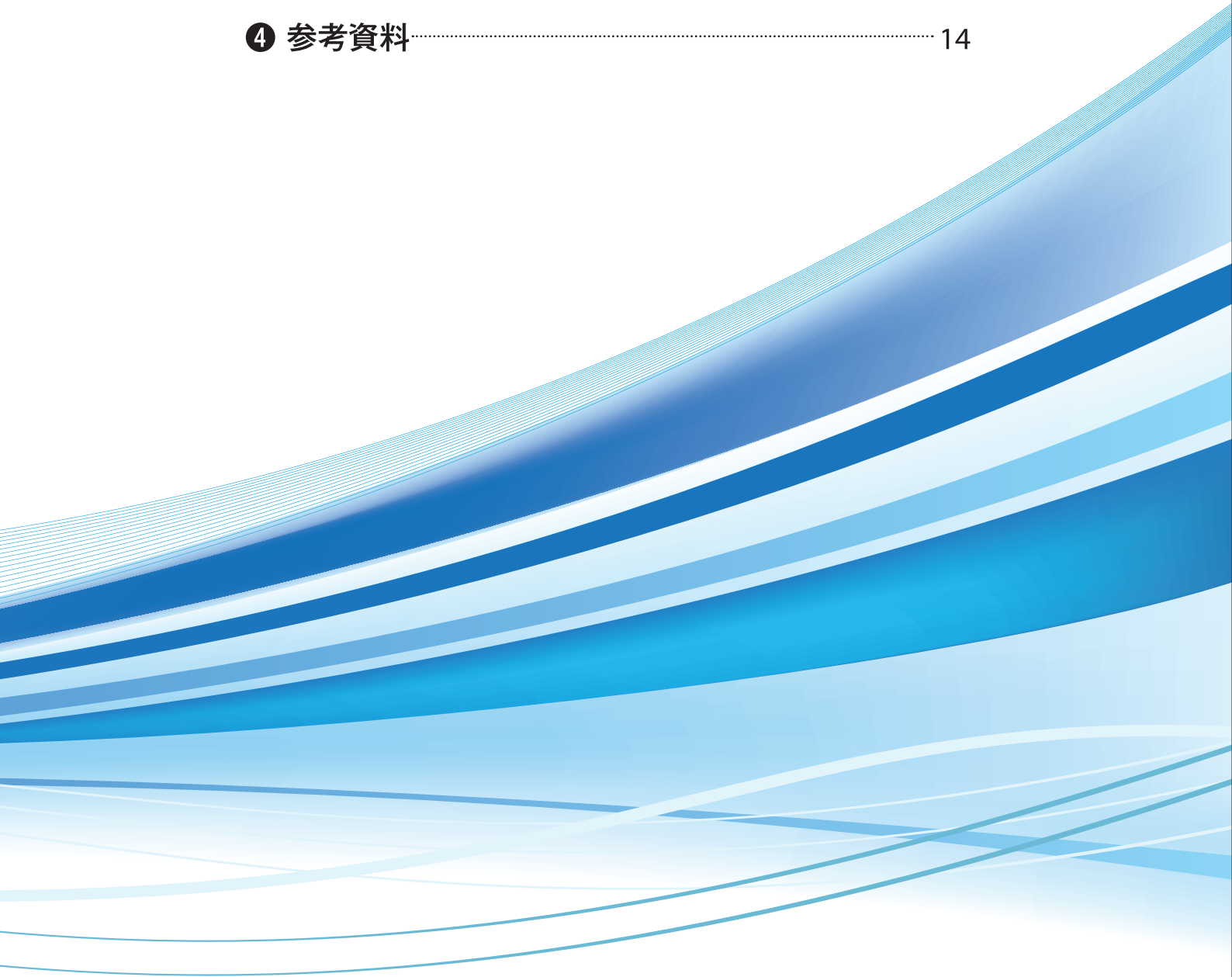


北九州産業学術推進機構 (FAIS) は、
「新たなものづくり (コトづくり)」を通じ、
「人」を中心とした社会
=Society 5.0 with Human
の構築に取り組んでいきます。



Contents

① はじめに	2
② 新中期計画の内容・ポイント	4
③ 新中期計画を踏まえたこれからのFAIS	12
④ 参考資料	14



① はじめに

1) 北九州産業学術推進機構について

公益財団法人 北九州産業学術推進機構（以下「FAIS」という。）は、2001年の北九州学術研究都市の開設に併せて設立され、以来、17年間にわたり、産学連携のコーディネートによる研究開発から事業化への支援、中小企業に対する創業・経営支援等、北九州地域における産業支援機関として活動し、本市の産業の振興に取り組んできました。

2) 現行の課題認識

現下の社会経済情勢をみると、日本国としては、プラス成長が続き、正社員の有効求人倍率も1倍を超え、正社員への転換が加速しています。他方、中小企業は、深刻な人手不足に直面しており、人材確保を支援することと併せ、生産性向上に向けた取組は待ったなしの状況にあります。これは、北九州市においても同様です。

加えて、北九州市が定める「北九州市まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、本市において、社会動態及び自然動態が減少していることにより、人口が減少していることに注視しています。その上で、国や県と一体となって、更にはオール北九州による多方面からの地方創生の取組を行うことで、社会動態をプラスに転じさせ、人口減少のスピードを緩めることに挑戦していき、将来にわたって活力ある北九州を維持していくこととしています。



3) FAISの対応(新中期計画の策定へ)

こうした中、2018年4月、FAISは、市の行財政改革の要請等により、公益財団法人九州ヒューマンメディア創造センター(以下「HMC」という。)と統合しました。この統合は、ものづくりなどに関して産業・企業・大学が有するシーズ等に精通したFAISと、情報通信分野で優位性を持つHMCのそれぞれの強みを融合するもので、これにより、企業のIoT(モノのインターネット)の活用等による生産性向上に向けた支援活動が強化・拡充され、本市企業の生産性向上に寄与することが期待されています。

今回定められる新中期計画は、FAISのこれまでの活動やその成果、現下の社会経済情勢及び北九州市が直面する課題、また、HMCとの統合による新たなFAISの機能を踏まえ、2018年度以降の5年間にFAISが取り組むべき施策や目標を定めるものです。

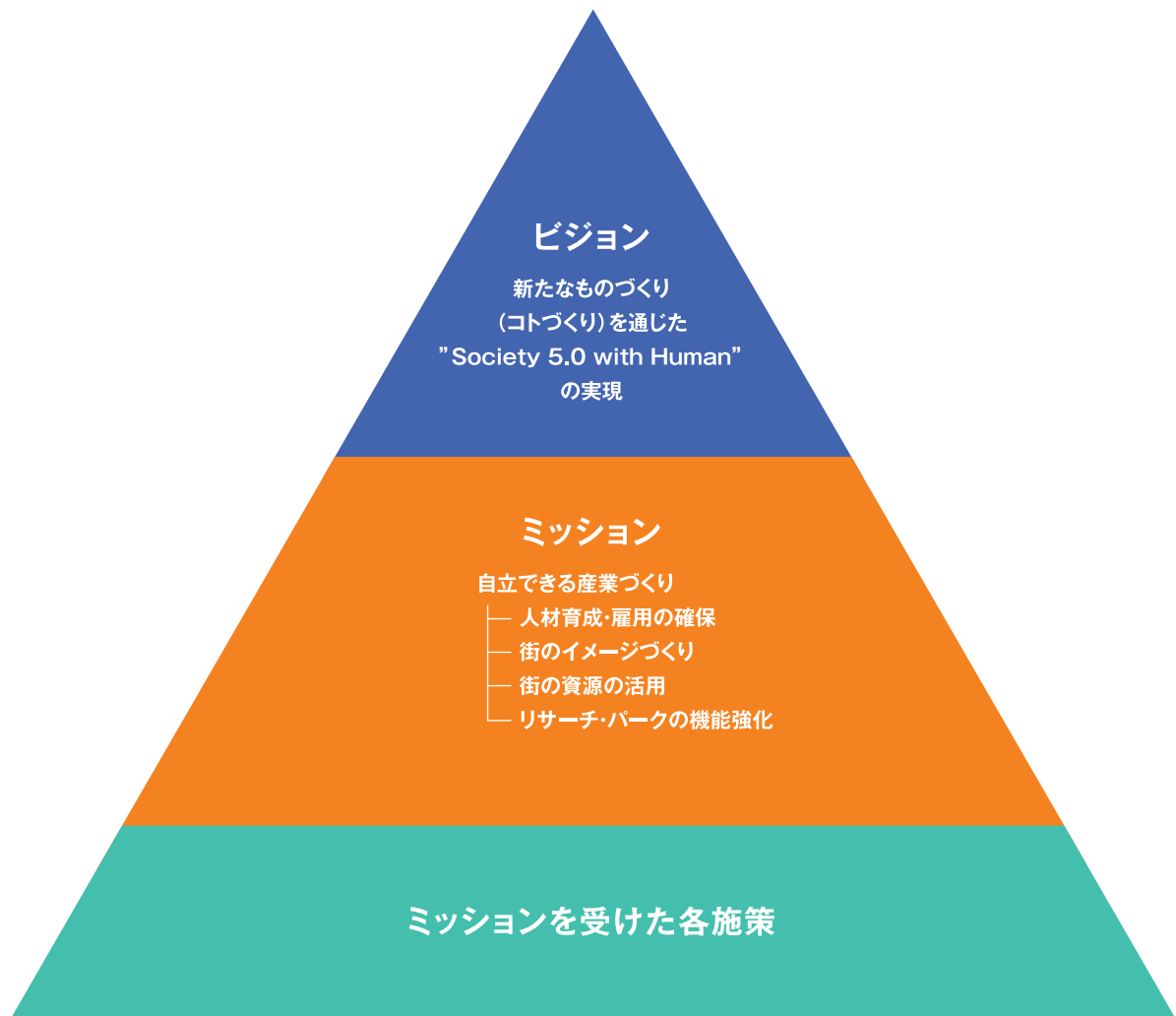
策定にあたっては、理事長をトップに、FAIS幹部による中期計画原案の検討会議を9回開催するとともに、FAIS全スタッフとの意見交換を通じ、北九州地域が抱える、持続的発展のための課題を洗い出し、その課題解決に向けてFAISがどのように貢献できるかを議論して、中期計画に反映させました。さらに、中期計画を踏まえた施策の有効な推進には、産業界や大学その他の関係機関・関係者のニーズや意向を把握することが不可欠であると考え、こうした関係者に対するヒアリングも36回開催する中で、中期計画全体の取りまとめを行いました。また、FAISが位置している北九州学術研究都市全体の知名度や機能の向上を目指す目的で、北九州学術研究都市のブランディング戦略も2017年度にあわせて検討したところですが、ここで提起された、ブランディング実現に向けた実践的メニューについても、新中期計画において反映しています。

Society 5.0 with Human

② 新中期計画の内容・ポイント

1) 新中期計画の構成

新中期計画は、FAISがこの計画を通じて最終的に目指す「ビジョン」と、そのビジョンの実現のために必要とされる施策の柱である「ミッション」、さらにそのミッションを具体化させる各施策で構成されています。詳細は、「4.参考資料」の1)にある「新FAIS 中期計画の背景と役割・施策体系」をご参照ください。



2) 「ビジョン」と「ミッション」の中身

ービジョンー

今回の新中期計画でFAIS が目指す最終的なもの(ビジョン)は、次のとおりです。

ビジョン: 新たなものづくり(コトづくり)を通じた
“Society 5.0 with Human” の実現

このビジョンへの思いは次のようなものです。北九州地域は、官営八幡製鐵所が1901年に稼働を始めて以来、一貫して「ものづくり」を大切にし、基幹産業として発展してきた街です。この「ものづくり」が、近年の少子高齢社会などに起因した労働力不足や、多品種少量生産を求める消費者側のニーズの変化、AI（人工知能）やIoT（モノのインターネット）の登場といった生産工程の劇的な変化などに対応し、今後も北九州地域の基幹産業として活躍し続けるためには、これまで継続してきたいわゆる「古いものづくり」を革新的に改めていく必要があると考えています。これが、「新たなものづくり」です。

さらに、この実現には、単に生産ラインに最新の設備を導入するといったことでは不十分で、これからの消費者・市民が求める新しい価値を創り出す（創造する）という観点が不可欠だと考えています（コトづくり）。例えば自家用車は、自由にいつでもどこでも移動できる価値を提供し、また、運転する楽しさを提供していますが、この価値は所有することで実現していました。しかし今は、車に求められているのは「快適な移動手段としてのサービス」であるとして、車を所有せずにそのリース、あるいは共有（シェアリング）を求めるような動きもあります。また、スマートフォンがその典型でしょうが、同じスマートフォンであっても、どのようなアプリケーション（アプリ）をダウンロードして、どのようなサービスを利用するかは利用者によって大きく異なっており、単一のものづくりが非常に難しい時代に入っています。このような意味で、日々、また個々人で激しく変化する消費者のニーズを、時宜を得た形で汲み取り、あるいは先取りして、新たな価値を提案していくことがものづくりに必須となっていると認識しています。

そのため、このものづくりの変革と価値の創造（コトづくり）が必要ですが、それには先進技術の導入や人材育成、働き方改革の実践などを通じた実現が重要であると考えています。これは、政府の提唱するこれからの社会像である「Society 5.0」の考え方と同義です。すなわち、AIやIoT、ロボット技術などを高度に整備することによって、バーチャルな世界で急速に発展したICT（情報通信技術）を現実世界にさらにつなげていくことで、我々の衣食住をより快適なものにすることを目指します。

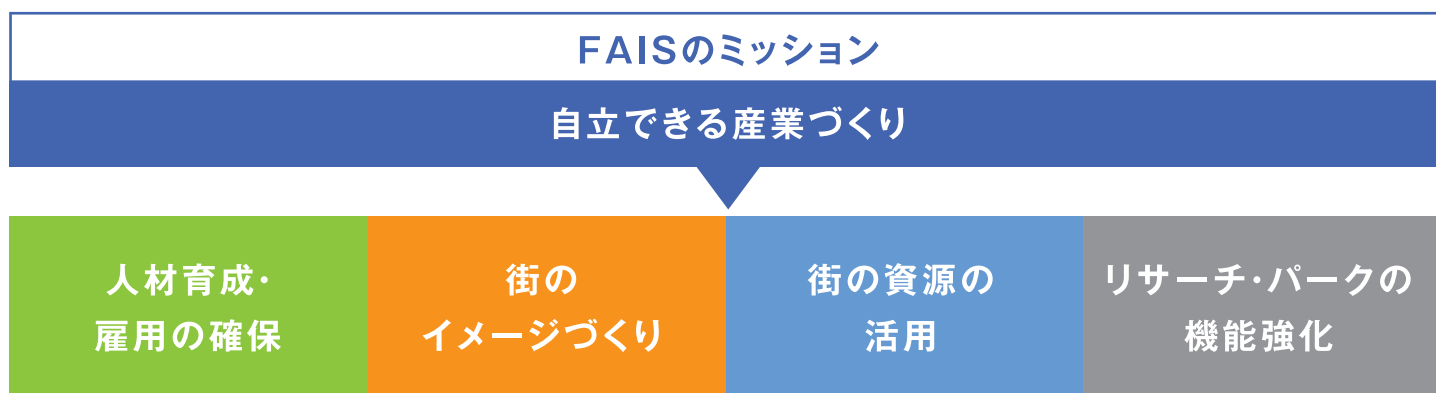
しかしながら、FAISとして、単なる技術革新を進め、Society 5.0を実現するだけでは今後の進むべき社会の姿としては不十分だと考えています。すなわち、これからの我が国において重要な点は、ICT等によるサービスの高度化によって、かえって人間同士の支え合いが希薄となってしまっている現状を改善して、技術・技能とともに、高い社会性をもった「人」（Human）が社会の中心となることであると考えます。そのような人々が社会的に豊かにつながった上で、新たなものづくりや新しい価値の創造を進めていくことのできる、そのような社会・地域をつくっていくべきだと考えています。このようなことが実現できる社会を、国が目標としているSociety 5.0に加えて、あえて、**“Society 5.0 with Human”**とFAISでは表現し、その実現を目指します。新中期計画を定めるタイミングで、「ものづくり分野」の取組を進めてきたFAISと「情報（IoT等）分野」で取組を進めてきた九州ヒューマンメディア創造センター（HMC）が合併することとなりました。両者の取組を融合し、北九州市の産業構造の変革や強靱化に重要な役割を果たす中で、この「Society 5.0 with Human」の実現を目指します。

—ミッション—

ビジョンの実現のためにFAISが進める中核的なミッションは、「**自立できる産業づくり**」です。FAISの産業支援の相手方は中小企業が中心となりますが、その中小企業が、大企業を中心とした取引先からの受注に頼ることなく、自らがものづくりの変革や価値の創造に取り組み、時には新たな取引先を確保するといった活動ができるように、必要な取組を進めていくために、この「自立できる産業づくり」が大切と考えています。

具体的には、中小企業を中心とした地域の企業（起業の動き（ベンチャー）を含む）に働きかけ、生産性の向上や、関係者間の有機的連携（オープン・イノベーション）を通じた新しいものづくりを促進し、産業の高度化を進めます。その際、他者に依存しない企業文化の醸成を促し、産業の持続的発展の実現を目指します。

さらに、「自立できる産業づくり」には、それを促すような周辺環境の充実や、元気のある地域づくりが必要です。このため、このメイン・ミッションを支えるものとして、新中期計画では次の4つのサブ・ミッションを定めることとしました。「**人材育成・雇用の確保**」、「**街のイメージづくり**」、「**街の資源の活用**」、「**リサーチ・パークの機能強化**」



1つ目の「人材育成・雇用の確保」ですが、どのような産業であれ、その展開には人材が不可欠です。新たなものづくりや新しい価値の創造ができるような人材を育てるだけでなく、そのような技能を学んだ人々が北九州地域に定着してもらえるよう様々な施策を進めていく必要があります。現状では、北九州市内の大学で学んだ優秀な人材も、多くが他地域で就業してしまっているという実態があり、この課題の解決は極めて困難ですが、後述する施策メニューなどを駆使して対応していきたいと思えます。

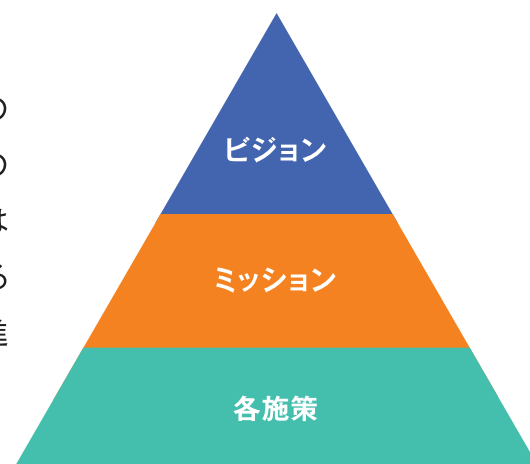
「街のイメージづくり」は、自立できる産業をつくらうとしても、その当事者が街に対する愛着がないと取組が真剣にならないし、また、魅力的な街でなければ優秀な人材が域外から訪れることはないという観点からのサブ・ミッションです。一方、北九州地域は街の魅力に欠けた地域ではなく、その価値を高めるような素材・資源は十分あるのですが、その資源を連動して、あるいはパッケージ化して主張できていないのではないのかという観点から、「街の資源の活用」というサブ・ミッションも立てることとしました。

これらに加え、FAISが拠点を置く北九州学術研究都市は、北九州市立大学と九州工業大学、さらに早稲田大学を擁しており、北九州地域の自立できる産業づくりの1つの拠点となることができると考えております。そのため、本学術研究都市の「リサーチ・パークとしての機能をこれまで以上に強化」し、新たなものづくり(コトづくり)の推進や、知名度の向上などを図っていきたいと考えています。

これら4つのサブ・ミッションが1つのメイン・ミッションを支え、全体としてSociety 5.0 with Humanというビジョンの実現を目指します。なお、上記のミッションに加え、FAIS内部の体制づくりや財源の確保を進めることで、全体として効率よくFAISの事業活動が展開できるようにします。

3) 「各施策」の中身

各ミッションを受けた具体的な施策については、「4.参考資料」の1)の一覧表にあるとおりです。それぞれのミッション下の施策は、この新中期計画で「新規に取り組むもの」と「拡充させるもの」、さらには「継続させるもの」に分類しています。また、赤字で表記されているものは新中期計画上の「重点施策」であり、特に力を入れてその推進を図ります。具体的には、例えば次のようなものがあります。



■「自立できる産業」(メイン・ミッション)の下にある重点施策

【中小企業支援機関間の協働プラットフォーム】

現行においても、中小企業の活動支援は北九州地域において複数の機関で様々な進められていますが、これまでは、支援機関それぞれが概ね独自に取組を進めており、連携が不十分であって、結果として、非効率な支援であったと認識しています。FAISとしては、中小企業支援を北九州地域で行っている機関が一堂に会する場を「協働プラットフォーム」として設け、限られた資金・人員でどうすれば効果的な中小企業支援ができるのかを明らかにし、必要な行動に移していきたいと考えています。

【「光る中小企業」へのプレミアム支援】

新たなものづくり(コトづくり)の実現には、護送船団的に中小企業全体を支援するのではなく、先見の明のある強いリーダーを有する「光る中小企業」を見出し、その企業に対し技術面から資金面にいたるまで幅広く支援をすることで、北九州地域における新たなものづくり(コトづくり)の手本となってもらうことが重要と考えています。AI(人工知能)・IoT(モノのインターネット)の導入や事業承継に係る支援を行うとともに、技術的な「目利き」として機能することで、地域金融機関等の投資家への繋ぎも行うなど、手厚い伴走支援を実現します。

【System of Systemsの実証実験】

System of Systemsとは、例えば自動運転や建物管理、電力マネジメントなど、それぞれ独立しているシステムを統括するための上位システムを構築したり、さらにそれをよりよいものとするための法制度などのシステムを上位に設定したりと、複数層のシステムが連携して社会をよりよくしていくという概念です。Society 5.0を有効に実現するためには必須の仕組みと考えられており、北九州地域では北九州市立大学が中心となってJST(科学技術振興機構)の支援を受けており、「超スマート社会実証事業」(超スマート社会(Society 5.0と同義)の体現を目指す事業です。)が北九州地域で2018年度から本格的に進められています。FAISは、その一員として参画し、Society 5.0や超スマート社会の具現化を目指します。

【「北九州IoT推進ラボ」による生産性向上事業の創出】

公益財団法人 北九州産業学術推進機構と公益財団法人・九州ヒューマンメディア創造センターが、これまで積み上げてきた両財団の知見を結集し、北九州e-PORT構想2.0の推進による新ビジネスの創出や地域産業の高度化を実現するため、具体的なIoTモデル・プロジェクトを案件探索から導入まで実施することにより、継続的にプロジェクトが創出される持続可能な仕組みづくりを行います。

【生産性向上への支援】

世界的な産業変革や労働力不足等に対応した上でFAIS内外で取り組む生産性向上に関する諸活動を効率的に推進するため、諸活動を横断的に掌握し最適化を図る推進体制を設置して推進します。具体的には、地域企業への専門家派遣や生産性向上の手引書作成、システム・インテグレーターのネットワーク化等に取り組む、ロボット・IoT・AIなどの導入を促進させます。

【実証フィールド・コミッションの推進】

Society 5.0 with Humanを実現させるための実験場としての北九州地域の位置づけを今以上に強固なものとするため、様々な実証実験の企画・実施をワンストップで行う場として、関係者とともに「実証フィールド・コミッション」を進めます。

北九州e-PORT構想の中身については、「4. 参考資料」の4)にある説明をご参照ください。



■「人材育成・雇用の確保」(サブ・ミッション)の下にある重点施策

[革新的生産性向上を支える人材育成基盤づくり]

北九州学術研究都市に位置するFAISとしては、この学術研究都市の3大学(北九州市立大学、九州工業大学、早稲田大学)に学ぶ学生(留学生含む)を中心とした地元の学生にAIやIoTなどの最先端の技術が身につくよう、大学等と連携して人材育成を進めます。さらに、この学生に北九州地域で卒業後に就業してもらい、地域の発展に貢献してもらうことが大切だと考えていますが、現時点ではそれが実現されておらず、多くの卒業生が域外で仕事を見つけています。この現状を改めるため、北九州地域で学ぶ優秀な人材が、域内で労使ともに納得のいく形で就業の機会を得られるよう、インターン・シップのコーディネートや、地元就業支援、企業情報の学生への提供等を本施策で進めていきます。

■「街のイメージづくり」(サブ・ミッション)の下にある重点施策

[フューチャーセンターの創設]

地域の未来を考えるには、限られた一部の人が考察し方針を決めるだけでは不十分で、地域の多分野の有志が幅広く参画し、未来を明るく語り、自らの課題としての意識をもって対策を考えていくことが重要です。このように未来を語る共創・協働の場は「フューチャーセンター」と呼ばれており、FAISにおいても2017年度に試験的な立ち上げを行ったところですが、新中期計画ではそれを本格化し、サブ・テーマである「街のイメージづくり」や、学研都市組織間のコミュニケーションの充実を通じた「リサーチ・パークの機能強化」を進めます。

■「街の資源の活用」(サブ・ミッション)の下にある重点施策

[市内視察資源のパッケージ化]

環境先進都市、あるいは、実証実験都市などとして、北九州市には多くの方が視察に訪れていますが、訪問者の依頼を受けた事項に限った視察となることが多く、市内にある他の視察資源とのセットでの売込みがなかなかできていないと認識しています。市全体のアピールとして、どのような形でパッケージ化した視察資源の提唱ができるか、検討していきます。

■「リサーチ・パークの機能強化」(サブ・ミッション)の下にある重点施策

[学研都市大学とFAISの共同国際プログラムの推進]

北九州学術研究都市の知名度を、国内的にも国際的にもより一層アピールするために、学研都市内の大学(北九州市立大学、九州工業大学、早稲田大学)とFAISで共同で、国際会議の開催など国際プログラムの推進を目指します。

【イノベーション・キャンプの開催】

北九州学術研究都市の発展に関心のある関係者が一堂に会する学際キャンプを「イノベーション・キャンプ」として開催します。さらに、国内外の第一線級の研究者を招聘して、「基盤技術×先導研究×人間研究」に関わる骨太のテーマでのシンポジウムの開催などを目指します。

■FAISの体制づくり及び財源の確保のための重点施策

【FAIS内の戦略的機能の強化】

今回新中期計画で定まった新規の重点施策を中心に、今後の取組を有機的・効果的に進めるために、FAIS内部に関連の推進本部を設けるなど、FAIS内の戦略的機能を強化します。

【FAISに相談しやすい環境づくり】

今回の新中期計画策定に当たり、様々な方にヒアリングをする中で、「FAISは敷居が高く相談しにくい」という声がありました。FAISの体制づくりの一環として、この点に適切に応えるため、北九州学術研究都市に位置するFAIS内の各センターとFAISの内部組織であって中小企業との主な接点になる中小企業支援センターとの密接な協働を今まで以上に実現させ、中小企業がアプローチしやすい環境づくりを進めるとともに、中小企業の発展のニーズに具体的に答えられるようにしていきます。



③ 新中期計画を踏まえたこれからのFAIS

1) 新中期計画の具体的な進め方

新中期計画に掲載されている内容は全く新しい要素もありますが、これまでの取組の継続や拡充も含まれています。これらの施策をどのように実現していくかについては、新中期計画を進める中で、その運用を通じて明らかとなる部分も少なくありませんが、これまで進められてきたFAISやそれ以外の組織などの関連の取組を今まで以上に有機的に連携させ、少しずつでも前に進むことで実現させていきます。

また、新中期計画では1つのメイン・ミッションの下に4つのサブ・ミッションが定まっており、施策実施の優先順位については、メイン・ミッションに貢献するものから優先的に取り組んでいきます。

さらに、FAIS内部組織としては、先述のとおり各施策の効果的・効率的実施のために、その戦略部門の強化を図る方向です。

2) 中期計画の推進に係る評価指標

新中期計画が有効に実施されているかを判断するに当たり、評価指標を事前に設定し、その実現との関係で必要な評価を行うのは有効な手法と考えます。しかし、FAISが今回定めるSociety 5.0 with Humanというビジョンの実現には時間がかかると考えられ、また、FAISの個々の施策の取組がビジョンの実現に具体的にどのように貢献したかを明らかにするのは容易ではありません。そのため、新中期計画では次のとおりの指標を設け、その変化を追いつつ、数値データだけにとらわれない背景分析などを通じて、各施策がミッションやビジョンの実現によりよく貢献するようにします。

すなわち、まず、FAISの各施策の取組の現況を把握するため、「4. 参考資料」の3)にある参考指標を設定し、毎年度その変化を把握します。その上で、この参考指標のそれぞれの変化について、各ミッションとの関係での要因分析をするとともに、各ミッションやビジョンの実現のためにどのような取組が必要か解析します。さらに、FAISの取組全般について、関係の産業界、学术界等に対してアンケートを定期的実施し、定性的・定量的な評価をしてもらうことで、FAISのサービスの受け手からの声を具体的に施策に反映させていきます。また、「4. 参考資料」の3)にある参考指標に加えて、FAIS全体としての取組の進展を把握できる定性的・定量的な指標の設定については、今後とも可能な限り目指し、その動向を分析します。特に新中期計画実施の3年後(2020年度)には、中期計画全体の中間見直しを行い、必要に応じて中期計画の変更・改善を行います。

3) 新中期計画の効果的な実施に向けて

FAISは、最初にしたとおり北九州地域の発展に寄与するために設立されました。昨今の時代の大きな変化を踏まえつつ、企業や教育機関、行政や市民の声を幅広く聞きながら、どうすれば地域の発展にFAISが有効に貢献できるのか、常に考えながら進んでいきたいと思えます。そのため、この新中期計画も一度定まって終わりの硬直した計画ではなく、骨格は維持しつつも、日々のニーズに変化して対応できるような、しなやかさを擁したいと考えています。具体的には、内部的には先述した戦略部門の強化を図り、PDCA cycle (plan-do-check-act cycle) を回しつつ、運用を通じてさらに地域貢献度の高い中期計画となるよう努力を続けていきます。



4 参考資料

1) 新FAIS中期計画の背景と役割・施策体系

「ものづくり技術」と「情報技術」の融合で、新たなものづくり(コトづくり)を推進

- ・労働力不足や多品種少量生産等産業高度化需要の高まり、新しいシステム導入の必要性に応えるため、IoT、AI、3D等の最先端技術の導入は不可欠。
- ・FAIS(公益財団法人北九州産業学術推進機構)は、個別の中小企業支援や北九州学術研究都市の研究者等と協力したIoTやロボット導入、研究会(3D、AI、エネルギー)等を推進。
- ・FAISとHMC(公益財団法人九州ヒューマンメディア創造センター)との合併で、「ものづくり分野」への取組と「情報(IoT等分野)」への取組を融合し、北九州市の産業構造の変革、強靱化に重要な役割を果たす決意。
- ・このため、FAISの役割や取組みを「中期計画」としてまとめ、効果的・効率的な活動を展開。
- ・「新たなものづくり(コトづくり)」と同時に「人」を中心とした社会づくり(Society 5.0 with Human)の実現を目指す。
- ・その取組は、産業界(北九州商工会議所、北九州中小企業団体連合会等)や大学、金融機関等と連携して展開。

世界的な産業変革



Industry 4.0の
急速な普及

国による
Society 5.0
の推進



http://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/index.html

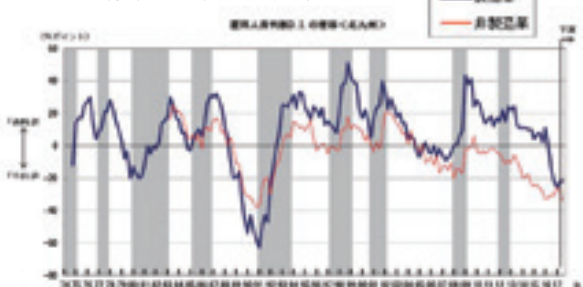
企業の発展には
「新たなものづくり
(コトづくり)」が必須

そのための大学等での
研究開発や
人材育成が必要

地域
(企業、大学等)
ニーズの充足

顕在化する人材不足

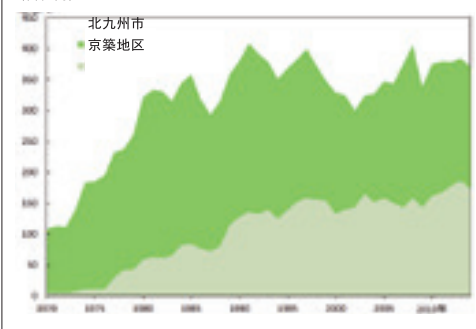
- ・製造業の人材不足感は急速に進んでいる
雇用人員判断D.I.の推移<北九州>



日本銀行北九州支店管内「企業短期経済観測調査(短観)」2017年6月

製造品出荷額の地区別推移

(百億円)



FAISの役割
・関係者の下支え
・政策提言等

FAIS中期計画のビジョン、役割

ビジョン

新たなものづくり(コトづくり)を通じた
”Society 5.0 with Human”の実現

先進技術・働き方改革を通じた
「ものづくりの変革(コトづくり)」

+

技能・技術と高い社会性をもった
「人」を中心とした社会

自立できる産業づくり

ミッション

地域の企業に働きかけ、生産性の向上や、関係者間の有機的連携(オープンイノベーション)を通じた新しいものづくりを促進し、産業の高度化を進めます。その際、他社に依存しない「自立できる産業」の構築を通じた産業の持続的発展の実現の目指します。

人材育成・雇用の確保

街のイメージづくり

街の資源の活用

リサーチ・パークの機能強化

ミッションを受けた各施策

(次ページの一覧の赤色文字は重点施策)

組織の統合的推進

北九州商工会議所、北九州中小企業団体連合会、企業、大学、高専、北九州市、金融機関、関係機関、FAIS 等

期待される役割(a)と便益(b) ※各施策に関しては別途記載

全体	a	情報・仕組の共有でワンストップ化・効率化 等
	b	利便性向上、資源利用効率化 等
企業	a	要素技術・資源の融合、生産改革 等
	b	生産性向上、人材確保、付加価値の向上 等
大学	a	企業ニーズに合った研究開発、人材育成 等
	b	開発技術の社会実装、財政資源の確保 等
関係機関等	a	機関間の協働、企業・大学等へのワンストップ 等
	b	資源利用の効率化、効果の拡大 等
FAIS	a	統合的推進のコーディネート、仕組みづくり 等
	b	全体最適解の提供、地域発展への貢献 等

FAIS中期計画の施策体系

自立できる産業づくり

【新規】

中小企業支援機関間の協働プラットフォーム

「光る中小企業」へのプレミアム支援

中小企業革新的成長支援事業での特に手厚い伴走支援

System of Systemsの実証実験

国が実施する「超スマート社会事業」について、北九州地域を実証フィールドとした大型プロジェクトの実現を目指す

「北九州IoT推進ラボ」による生産性向上事業の創出

【拡充】

生産性向上への支援

実証フィールド・コミッションの推進

産業用ロボット導入への支援

北九州価値創造研究会の推進

商工会議所や北中連との統合的支援の推進

国等研究開発プロジェクト受託等の推進

e-PORTプロモーションの推進

e-PORT構想2.0による新規プロジェクト創出

【継続】

新技術・新製品の開発・実証化・事業化の支援

3Dものづくり技術研究会の推進

総合的な中小企業支援

北九州知的財産支援センター運営

TLO運営

新エレクトロニクス産業の創出

カーエレクトロニクス拠点の推進

市内発ロボット創生

介護ロボット等開発及び導入・実証

ひびきのサロン

人材育成・雇用の確保

【新規】

革新的生産性向上を支える人材育成基盤づくり

インターンシップ・コーディネート、ワークショップ、学研都市大学生（留学生含む）等の地元就職支援・マッチング・企業情報の学生への提供等

enPiT-everi

商工会議所等とタイアップした北九州地域のPR

学研都市への研究機関や企業の誘致

【拡充】

情報産業の発展・守りのITの集積促進

地域情報産業の人材確保

実践的ICT人材の育成

【継続】

生産性向上スクール

連携大学院

留学生就職支援プログラム

語学教育センターの運営

FAISの体制づくり及び財源の確保

【新規】

FAIS内の戦略的機能の強化

新中期計画に対応した体制づくり

FAISに相談しやすい環境づくり:

学研都市各センターと中小企業支援センターとの密接な協働

【拡充】

FAISの自立的運営の確保

街のイメージづくり

【新規】

フューチャーセンターの創設

産と学のマッチング・産学官民による未来の共創・協働の場の創設

【拡充】

新しい「街のイメージ」を支える基盤づくり

街の資源の活用

【新規】

市内視察資源のパッケージ化

産と学のマッチング・産学官民による未来の共創・協働の場の創設

【拡充】

自立した地域エネルギー・マネジメントの推進

リサーチ・パークの機能強化

【新規】

フューチャーセンターの創設

産と学のマッチング・産学官民による未来の共創・協働の場の創設

学研都市大学とFAISの共同国際プログラムの推進

イノベーション・キャンプの開催

企業冠型CSV(共通価値の創造)アワードの実施

学研都市の成長戦略の構築

【拡充】

施設を有効活用した情報発信・交流機能の充実

キャンパス運営委員会の活性化

地域や小学校とのネットワーク・連携強化

学研都市のPR

学術研究施設等の管理運営

【継続】

AI技術の適用実証

学研都市地域交流

産学連携の推進

海外大学等連携の促進

学研都市施設の活用

九州ヒューマンメディア創造センター(ビル)の管理運営

FAISの組織整備
実効性の確保 FAISの予算編成:国事業等獲得での
 独自予算、学研都市連携予算、市予算等

計画期間 2018~2022(5年間)
 2020年度に中間評価・見直し

成果目標

3年後(黎明)
 中間見直し

5年後(拡大期)
 中期計画最終年

“Society 5.0 with Human”の実現
 ものづくりの変革 「人」を中心とした社会

10年後(拠点期)
 将来像

活動目標

2) 新FAIS中期計画における重点施策(赤字)以外の施策について

前項「1)」にある中期計画の一覧表中の重点政策(赤字)以外の施策の概要については次のとおりです。

■自立できる産業づくり

拡 充

[産業用ロボット導入への支援]

地域中小企業の生産性向上の一助として、産業用ロボットの導入を促進します。具体的には、生産現場を訪問しての技術相談や課題抽出、改善提案、効果検証など幅広くサポートします。

[北九州価値創造研究会の推進]

地方創生に向け北九州地域の知的資産を総活用し、地域イノベーションを創出するため、産業界・大学・自治体・金融機関等と連携した研究会を運営します。

[商工会議所や北中連との統合的支援の推進]

北九州商工会議所や北九州中小企業団体連合会(北中連)との連携をこれまで以上に進めて、中小企業を中心とする北九州地域の企業の新たなものづくり(コトづくり)に資する支援策を総合的に推進していきます。またこの取組については、新規施策である「中小企業支援機関間の協働プラットフォーム」に統合させていきます。

[国等研究開発プロジェクト受託等の推進]

産学連携による研究会やプロジェクト等の推進・拡充を図り、事業化に向けた展開を加速化させるため、国等の資金を活用した研究開発プロジェクトに積極的に取り組みます。

[e-PORTプロモーションの推進]

北九州e-PORT構想2.0を推進するため、これまでに築いてきた地域企業とのつながりや情報資源を活用しながら、課題解決型のビジネス創出などにより、地域における雇用の創出と情報産業振興を図っていきます。

[e-PORT構想2.0による新規プロジェクト創出]

(消費者がより必要とするものを提供する)マーケットインによるアプローチで、社会ニーズとe-PORTパートナーなどが保有する技術シーズを結び付け、そこから生まれる新しいサービスや商品の事業化に向けた支援を行います。

継 続

[新技術・新製品の開発・実証化・事業化の支援]

北九州市の新成長戦略を推進するため、研究会の企画・運営、地域企業や大学の研究開発等に対する助成、国や民間等の外部資金を活用した研究開発の支援、展示会への出展等により、AI、IoT、ロボット等に係る新技術・新製品の開発・実証化・事業化を支援します。

[3Dものづくり技術研究会の推進]

市内企業の3D-CAD、CAM、プリンター等の導入活用による生産性向上や新たなものづくりを支援するために、最新技術動向や企業事例などを紹介する啓発セミナーや専門家による相談会を企画運営します。

[総合的な中小企業支援]

中小企業支援センターを中心に、地域の中小企業や創業予定の方からの「マーケティング」や「資金繰り」などの様々な相談に対し、専門家による総合的な支援を行います。また、センターの認知度アップに努めるとともに、課題解決能力や情報発信力の向上を図り、地元中小企業から信頼される取組を目指します。

[北九州知的財産支援センター運営]

知的財産に関する地域の支援窓口として、特許や商標など、企業活動上の知的財産に関する様々な問題を総合的にサポートします。

[TLO運営]

地域の大学等の研究者が生み出した優れた研究成果を特許化し、それらを民間企業に技術移転するため、北九州TLOを運営します。

[新エレクトロニクス産業の創出]

これまでのLEDアプリケーション創出協議会活動における市内半導体・エレクトロニクス関連企業への開発・事業化支援に加えて、ものづくり革新グループ内及び情報産業振興グループとの連携を強化し、新たな事業の創出を目指します。

[カーエレクトロニクス拠点の推進]

知能化・電動化が進む自動車関連技術の研究開発機能の集積や、学研都市3大学連携大学院による次世代自動車技術を担う人材を育成し、学研都市の研究開発及び人材育成機能の充実を図ります。

[市内発ロボット創生]

新規のロボット産業への進出を促進し、市内のロボット産業の振興を図ります。大学等が持つ技術シーズを基に、地域企業も加わってのロボット試作活動を支援します。

[介護ロボット等開発及び導入・実証]

介護現場を見える化して抽出されたニーズを基に、介護ロボット等の開発・改良を行い、開発された介護ロボット等を施設に導入して、導入教育を実施した上で実証を行います。また、介護ロボット等の施設への導入に関連して、介護施設の拡充・提供と安全性支援、倫理審査支援をタイムリーに実施します。

[ひびきのサロン]

北九州学研都市から新たな産学連携の動きが生まれることを目指し、複数の研究者等が特定の技術テーマについて自由に意見を交換する交流の場として「ひびきのサロン」を開催します。

■人材育成・雇用の確保

新規

[enPiT-everi]

北九州市立大学が2017年度に受託した文部科学省のenPiT-Pro事業で、「人工知能やロボット技術などの新しい技術を身につける実践的教育プログラム」を開発します。FAISは企業との連携や実習プログラムの制作を支援し、事業の立上げや運用を推進します。

[商工会議所等とタイアップした北九州地域のPR]

商工会議所等と連携し、主にホームページ等を活用して北九州地域の魅力を広く国内外に発信することで、北九州地域への人材・雇用の定着を進めます。

[学研都市への研究機関や企業の誘致]

北九州市の誘致部門と連携しつつ、学研都市の魅力・シーズやFAISの有するコーディネート力を積極的に発信することにより、学研都市への研究機関や企業の誘致につなげ、雇用の場の創出を進めていきます。

拡 充

[情報産業の発展・守りのITの集積促進]

情報産業の発展に資する取組として、これまで行ってきたiDC（インターネット・データセンター）などの集積に加えて、市を支援する形で、システム・インテグレーション、セキュリティ、メンテナンス等のiDC周辺事業者に対する誘致活動を推進します。また、情報産業を下支えするIT人材の育成に係る取組を進めます。

[地域情報産業の人材確保]

人材の確保及び育成に苦慮する地域の情報系企業を対象に、自治体等が進める人材確保のための各種施策や取組に係る情報提供、地域情報産業と教育機関等との連携を推進し、必要とする人材の確保及び育成を促進することで、地域の情報産業の育成に貢献します。

[実践的ICT人材の育成]

若年層が実社会で今後必要なスキルを身につけるための「次世代ICT人材育成」及びIT企業の従業員のための実践的なビジネス・スキルの向上を目的とした「実践型ICT人材育成」を実施します。

継 続

[生産性向上スクール]

中小企業の生産性向上や新技術の習得、新事業開拓などを目指して、ロボット・IoT・AIといった新技術の導入をコーディネートできる人材を育成するため、関連の概念理解や操作実習などを盛り込んだ技術研修を開講します。

[連携大学院]

学研都市3大学連携で、次世代自動車技術・ロボティクス技術を担う人材を育成します。企業講師による講義や実習に特徴をもち、実践的人材育成を行います。さらに、企業ニーズが高まっているAI教育の導入を進めていきます。

[留学生就職支援プログラム]

学研都市の大学に在学する留学生のうち、日本企業に就職を希望している20名程度を対象として、就活日本語講座や日本ビジネス講座、就活セミナー等のプログラムを実施して、グローバル人材の企業就職を後押しします。

[語学教育センターの運営]

留学生や北九州学術研究都市に立地する企業・研究機関の職員等の日本語習得支援のために、習得レベルにあわせた日本語の講座(初級からビジネス日本語まで)を開講します。

■街のイメージづくり

拡 充

[新しい「街のイメージ」を支える基盤づくり]

これまでの取組に加えて、未来を語る共創・協働の場となるフューチャーセンターの創設を始め、イノベーション・キャンプや企業冠型アワード等を実施することによって街の魅力を向上させます。

■街の資源の活用

拡 充

[自立した地域エネルギー・マネジメントの推進]

学研都市内の3大学(北九州市立大学・九州工業大学・早稲田大学)の関係の専門家を中心として、北九州地域のエネルギー自給率の向上や、より環境負荷の低いエネルギー体系の実現を目指すための、必要な研究開発を進めます。

■リサーチ・パークの機能強化

新 規

[企業冠型CSV(共通価値の創造)アワードの実施]

FAISが事務局となり、地元企業の主力事業や新規事業に資する、公益性と事業性に富む技術・研究を公募し、企業群と有識者が審査・選定・顕彰を行うCSV(Creating Shared Value:共通価値の創造)アワードの開催を目指します。その際、アワードには地元企業名を冠し、地元企業の研究開発を直接的に支援するとともに、結果として、地域の発展に資するアイデアの創出に貢献します。

[学研都市の成長戦略の構築]

フューチャーセンターやキャンパス運営委員会等を通じて、日ごろの学研都市の運営の改善を図るだけでなく、今後の学研都市の知名度向上や機能向上に資する成長戦略の構築を、関係機関とともに進めていきます。

拡 充

[施設を有効活用した情報発信・交流機能の充実]

学研都市内において、県内外の高校生を対象としたワークショップや地域の小中高による学研都市見学会、地域との協同による「ひびきの祭」等を開催します。

[キャンパス運営委員会の活性化]

学研都市内大学及びFAISの幹部から構成されるキャンパス運営委員会について、学研都市全体での取組に関して、様々な課題解決に向けた共通認識を醸成し、活動につなげていく場として、更なる活性化を図ります。

[地域や小学校とのネットワーク・連携強化]

地域の自治区会やひびきの小学校との連携を強化し、学研都市及びその周辺地域の魅力向上を図ります。

[学研都市のPR]

学研都市紹介パンフレットの発行やプレス・リリース、ホーム・ページでの情報発信等を通じて、学研都市の活動を対外的に広くPRしていくとともに、イノベーション・キャンプや企業冠型アワード等の実施と連携して、学研都市の知名度向上を図ります。

[学術研究施設等の管理運営]

学研都市の指定管理者(2018年度~2022年度:5年間)として、コンプライアンスを遵守しつつ、安全・安心かつ利用者の視点に立った施設運営を行います。また、開発が進む学研都市周辺地域との一体感のある「開かれた学研都市」の実現を目指します。

継 続

[AI技術の適用実証]

ひびきのAI社会実装研究会を推進し、学研研究者のシーズを活かした応用テーマを企業とともに実証へと発展させます。さらに、AI技術を発展させる研究を進め、AI研究拠点として情報発信を行っていきます。

[学研都市地域交流]

地元自治会など地域の方々との協同による「ひびきの祭」を開催し、市民に開かれたキャンパスとして地域の人々との交流の促進を図るとともに、FAISも学研都市を構成する地域の一員として地域づくりに寄与します。

[産学連携の推進]

北九州学研都市を中心として、産学連携ネットワークの形成や新規プロジェクトの創出・運営、新規事業化の展開を促進することによって、地域企業の活性化や新産業の創出を目指します。

[海外大学等連携の促進]

学研都市の大学等が学研都市に進出している海外の大学と行う共同研究プロジェクトに対して支援を行うとともに、交流協定を締結している海外のサイエンス・パーク等と交流を進めます。

[学研都市施設の活用]

学術情報センターや半導体関連施設、会議場、体育施設等の各種施設の利用促進を図るため、利便性向上や学研都市施設の一層のPRを行います。また、学研都市で行われる様々な研究会活動や「ひびきのサロン」、「フューチャーセンター」、「ひびきの祭」などを通じて、学研都市内の大学・企業等や周辺住民はもとより、市内外の様々な人々が集う学研都市を目指します。

[九州ヒューマンメディア創造センター(ビル)の管理運営]

情報産業の集積活性化のため、財団ビルの管理運営(貸室、駐車場の賃貸及びマルチメディア・ホール、セミナールーム等の貸出等)を行います。

■FAISの体制づくり及び財源の確保

拡 充

[FAISの自立的運営の確保]

FAISの活動を安定的かつ自立的に進めていくための人材確保や、戦略部門の強化を始めとした組織改編等、柔軟な組織運営を行います。また、国等の研究開発プロジェクトなどの外部資金や収益事業収入の確保、継続的な事業の見直し等により、様々な形での財源の確保に努めていきます。

3) FAIS第5期中期計画の推進に係る参考指標

■ミッション「自立できる産業づくり」に係る指標

施策名	指標	現状	中期計画期間中の最終目標 (2022年度)
「自立できる産業づくり」の ミッションに係る 全施策に共通	国プロ等外部資金獲得総額	356,278千円	500,000千円
	研究開発プロジェクト件数	104件	100件
	新たに研究開発プロジェクトへ 参加した企業数	63件	80件
	事業化件数	25件	35件
	事業化金額	5,079,624千円	6,000,000千円
生産性向上への支援	革新的生産性向上企業数	1件	15件

■ミッション「人材育成・雇用の確保」に係る指標

施策名	指標	現状	中期計画期間中の最終目標 (2022年度)
生産性向上スクール	生産性向上に係る<ロボット、IoT等> 講座受講者数(延べ人数)	213人	250人
連携大学院	連携大学院修了生数	55人	60人

■ミッション「街のイメージづくり」に係る指標

施策名	指標	現状	中期計画期間中の最終目標 (2022年度)
フューチャーセンターの創設	フューチャーセンターの開催数	4回	5回

■ミッション「街の資源の活用」に係る指標

施策名	指標	現状	中期計画期間中の最終目標 (2022年度)
自立した地域エネルギー・ マネージメントの推進	国等外部の 研究開発プロジェクトの受託額	—	20,000千円

■ミッション「リサーチ・パークの機能強化」

施策名	指標	現状	中期計画期間中の最終目標 (2022年度)
イノベーション・キャンプの 開催	イノベーション・キャンプの 開催回数	—	1件

4) 新FAIS中期計画における用語の意味

〈System of Systems (SoS)〉

例えば自動運転や建物管理、電力マネージメントなど、それぞれ独立しているシステムを統括するための上位システムを構築したり、さらにそれをよりよいものとするための法制度などのシステムを上位に設定したりと、複数層のシステムが連携して社会をよりよくしていくという概念です。

〈Society 5.0 with Human〉

FAISが新中期計画で目指すビジョン。「Society 5.0」は、人工知能(AI)やIoT(物のインターネット)等が高度に整備され、バーチャルな世界で急速に発展したICT(情報通信技術)を、現実世界にさらにつなげていくことで、我々の衣食住をより快適なものにすることを目指したこれからの新しい社会の姿を示す概念です。「with Human」は、FAIS独自の考え方で、「Society 5.0」に加えて、人と人とのつながりや、うるおいのある社会づくりの大切さも重視するというものです。これにより、新しいものづくり／コトづくりと、社会性をもった人を中心とした社会の形成をあわせて目指します。

〈フューチャーセンター〉

立場や所属組織の異なる多様なステークホルダー(利害関係者)が集まり、未来志向の創造的な対話によって中長期的な課題解決を目指す協業に取り組んだり、あるいはその取組を支える場を指すものです。

〈コトづくり〉

単に優れた製品を作るだけでなく、コンセプトやストーリー、消費者の利便性などの高い付加価値が込められた製品をつくること、またそのような付加価値を創出すること、あるいは、優れた製品を生み出すための活力となり得る夢や目標を設けることです。

〈北九州IoT推進ラボ〉

地域の特徴ある多様な機関の知恵や技術力を結集し、ICT(情報通信技術)の利活用により地域課題の解決を図ることで、新たなサービスの創出を継続して実現し、地方創生の一躍を担うことを目的とした仕組みです。

〈北九州e-PORT構想〉

「IT」(情報技術)と「物流」の国際拠点都市を目指す北九州市において、sea-PORTとair-PORTという海・空の物流に関する国際ハブ・ポートの整備に加え、第3の国際ハブを「情報の港」(e-PORT)として整備し、ICT(情報通信技術)サービスを電気や水道のように、いつでも簡単・便利に使える社会づくりを目指すものです。北九州e-PORT構想2.0は、さらに、サービス事業者向けのICT利活用支援の具体的な仕組みを提供するものです。

〈TLO〉

技術移転機関 (Technology Licensing Organization) の略称で、大学の研究者の研究成果を特許化し、それを企業へ技術移転する法人であり、産と学の「仲介役」の役割を果たす組織です。大学発の新規産業を生み出し、それにより得られた収益の一部を研究者に戻すことにより研究資金を生み出し、大学の研究の更なる活性化をもたらすという「知的創造サイクル」の原動力として産学連携の中核をなす組織です。

〈enPiT-everi〉

enPiTは、文部科学省「成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成事業」で、「地域産業の競争力強化を図る人工知能とロボット技術を駆使したIoT(モノのインターネット)技術の社会実装を推進する実践的人材育成コースの開発・実施」を行うものであり、everiは、Evolving and Empowering Regional Industriesの略で、地域産業を発展させ、力を与えることをミッションとしています。

〈ひびきのサロン〉

FAISや大学が主催して北九州学術研究都市で開催しているもので、現在注目されている様々なテーマについて、産学官からその分野に精通する講師をお招きし、ご講演いただく無料セミナーです。特に来場者の皆様の技術課題の解決や共同研究、事業化へのきっかけづくりを目標としています

〈北九州革新的価値創造研究会〉

北九州市には、産業界をリードする思いのある経営者と、大学等発の有望なシーズが数多くあります。これらの「地域の知的資産(人と技術)」をフル活用し、革新的プロジェクトの創出やシーズの事業化を好循環で生み出す研究会が「北九州革新的価値創造研究会(カチケン)です。研究活動を推進することで、産業界・教育機関・金融機関等との新たな連携体制を構築し、北九州地域におけるイノベーションの加速化とエコシステムの形成を目指しています。



5) 新FAIS中期計画に係る主なQ&A

新中期計画策定に当たって、FAISでは多くの関係者にヒアリングを行い、貴重なご質問・ご意見をいただきました。ここでは、いただいたこれらのご指摘の主なものを紹介するとともにFAISの考え方をお示しいたします。

Q1 今回の中期計画は、これまでのものとどう違うのか？

A1 前回までの中期計画は、北九州市が定めたものを原則そのまま踏まえたものでしたが、今回は、北九州産業学術推進機構（FAIS）や、2018年4月から一緒になった九州ヒューマンメディア創造センター（HMC）の大勢の職員が、北九州地域の発展のために必要な課題を自ら考え、それに応える形で今後5年間FAISで取り組むべき任務を整理したものです。FAISが目指すべきビジョンをまず定め、その下にビジョンを実現するための主たるミッションと、それを支える4つのサブ・ミッションを設定し、それぞれのミッションを実現するための具体的な施策が列挙されているという構造になります。さらに、この新中期計画の最終決定に当たっては、できるだけ関係する様々な主体からご助言をいただき、極力計画の中で反映させていくプロセスをとっています。

Q2 今回の計画のビジョンである「Society 5.0 with Human」とは何か？

A2 2018年から始まるFAISの新5か年中期計画で目指すべきビジョンが「Society 5.0 with Human」の具現化です。「Society 5.0」とは、日本政府が主導するこれからの日本の目指すべき姿であり、人工知能（AI）やIoT（モノのインターネット）、ロボット技術などが高度に整備され、バーチャルな世界で急速に発展したICT（情報通信技術）を、現実世界にさらにつなげていくことで、我々の衣食住をより快適なものにすることを目指しています。しかしFAISでは、このような取組を通じたものづくりの変革、さらに言えば、そのものづくりに対応した新しい社会システムの確立（コトづくり）を目指すだけではありません。人と人とのつながりが大切にされ、また充実している、うるおいのある社会づくり、すなわち、ソーシャル・キャピタルとも言われている要素の大切さも各施策を進めていく上で重視して、単に「Society 5.0」を目指した結果としてソーシャル・キャピタルが豊かになるだけでなく、ソーシャル・キャピタルの充実の大切さを常に意識して日々の取組を進めたいと考えています。これが「Society 5.0 with Human」が示しているビジョンであり、新しいものづくり／コトづくりと、社会性をもった人を中心とした社会の形成をあわせて目指すものです。

Q3

今回の計画で書いてあることをどうやって実現していくのか？ その実現のための手順や体制は？

A3

新しい中期計画に掲載されている内容は、全く新しい要素もありますが、これまでの取組の継続や拡充も含まれています。これらの施策をどのように実現していくかについては、新中期計画を進める中で明らかとなる部分も少なくありません、これまで進められてきたFAISやそれ以外の組織などの関連の取組を今以上に有機的に連携させ、少しずつでも前に進むことで実現できるものと考えています。また、今回の中期計画では1つのメイン・ミッションの下に4つのサブ・ミッションが定まっており、施策実施の優先順位についても、メイン・ミッションに貢献するものから優先的に取り組んでいきます。さらに、FAIS内部組織としては、各施策の効果的・効率的実施のために、その戦略部門の強化を図る方向です。

Q4

今回の計画を踏まえて、 北九州学術研究都市にFAISとしてどう貢献するつもりか？

A4

先述のとおり、北九州学術研究都市に位置する3大学（北九州市立大学、九州工業大学と早稲田大学）やそれ以外の機関との連携を強化します。その際には、北九州学術研究都市の機能や知名度の向上を目指して、サブ・ミッションの1つである「リサーチ・パークの機能強化」に記載のメニューを中心に、FAISからの一方的ではなく、関係者とともに試行錯誤をする中で進めていきたいと思えます。

Q5

新しい中期計画で、地元企業のニーズにどう応えるのか？

A5

メイン・ミッションにあるとおり、他者に依存しない「自立できる産業」の構築が、特に地元の中小企業では必要と考えています。この点を支援するため、新しいものづくりを進めるための技術的な支援を進めるだけでなく、類似の取組を行っている組織などとの連携を通じた効果的な支援や、潜在的投資家の斡旋、意識の高い「光る」企業への集中的な助力など、全体を俯瞰した総合的な取組を進めていきます。具体的には、「自立できる産業」と「人材育成・雇用」の2つのミッションに記載されている施策を推進します。

Q6

FAISとHMCが一緒になることで何がどう変わるのか？

A6

HMC（九州ヒューマンメディア創造センター）は、「Society 5.0」の実現の前提となるICT（情報通信技術）の分野や、人を重視した「with Human」な取組でこれまで実績をつくってきました。今回定まる新しいビジョンである「Society 5.0 with Human」の実現には、FAISとHMCが一緒になることで、これまでFAISで蓄積した実績とあいまって、単なる足し算に終わらない相乗効果が生まれることを目指しています。具体的には、各施策を進める中で、先述したFAIS内部で強化される戦略部門が、その相乗的連携を進めるべく主導的役割を担うこととしています。

Q7 色んな機関が同じ取組をやっている。この点、FAISで何か対応するのか？

A7 類似の取組を行っている組織との連携は大変重要ですが、これまではそれが十分に行われていなかったと認識しています。今回の中期計画では、その点を改善するため、例えば「自立できる産業」のミッション中にある「中小企業支援機関間の協働プラットフォーム」の確立などを通じ、この点の改善と、より効果的な産業振興を目指していきます。

Q8 FAISは相談する際に敷居が高い。今度の中期計画で改善できるか？

A8 ご指摘の敷居を低くするには、FAIS側からもっと積極的に企業に接触し、FAISの取組をもっと知っていただくとともに、具体的な産業振興支援策を通じて、FAISを活用してもらうことが大切と考えています。この点、FAISの内部組織である中小企業支援センターとFAIS本体の有する情報をより有機的につなげて企業支援を充実させたり、中小企業支援センターによる企業訪問をより積極的に行うなど、「FAISに相談しやすい環境づくり」とそれに附随した施策を進めていきます。





公益財団法人 北九州産業学術推進機構 (FAIS)

〒808-0135 福岡県北九州市若松区ひびきの2-1 TEL.093-695-3111

<http://www.ksrp.or.jp/fais/>